

説教

聖日礼拝 北浜チャーチ
黒田禎一郎

2020年4月26日（日）

主 題：「生ける望みを持つように」

—まことの希望—

テキスト：1ペテロの手紙1章3～5節

はじめに

- 私たちは再びペテロ第1の手紙に戻ってきました。ペテロは1章のはじめ(1節、2節)で、離散したユダヤ人クリスチャンに「あいさつ」を送りました。そして今日の聖書箇所に入りました。彼は次のように言いました。
1:3 私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。
- ペテロはあいさつ文の次に、「父である神がほめたたえられますように。」と賛美しました。なぜ、ペテロは苦難の中で、神をほめたたえる（賛美する）ことができたかが本日のテーマです。
- しかしその前に、賛美する対象を「**主イエス・キリストの父である神が**」と言いました。天地を造られた神は、イエス・キリストの父であります。
- イエス・キリストは人類史において実在されたお方です。分かり易いですね。神は目で見えるお方ではありませんし、宇宙を創造されたと聞いても、ピンときません。しかし、実在したイエスの父であると言われたら、分かり易いと思いませんか。遠くにおられるのではないお方です。
- 世間では、神を知らない方が「お祈りしています！」と仰ってくださいることがありますが、私は時として「誰にですか？」と思うことがあります。その意味で、私たちは天地をお造りくださった真理の神に、祈り、賛美できますから本当に幸いです。
- ところで私たちは、イエス・キリストに目を注ぐことによって、神がどのようなお方分かります。イエスは次のように言われました。**ヨハネ福音書**
14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ、こんなに長い間、あなたがたと一緒にいるのに、わたしを知らないのですか。わたしを見た人は、父を見たのです。」
- さらにすばらしいことは、イエス・キリストにつながる私たちも、この方を「**天の父**」、「**天のお父さま**」と呼ぶことが許されていることです。イエスは主の祈りのはじめで、こう教えられました。**マタイ福音書6章**
6:9 あなたがたはこう祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名が聖なるものとされますように。』
- ですから、ペテロは「**私たちの主イエス・キリストの父である神がほめたたえられますように。**」と賛美しました。ペテロがイエス・キリストの父を賛美したように、私たちも父である神を賛美することができますから感謝しましょう。
- 今日、私は次の2点から神の御声を聞きたいと思えます。

大切なポイント

1. 新生の恵み

- ・ペテロは、神が何をしてくださったかを語りました。

1:3 神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちに新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。

- ・神は私たちに新しく生まれさせてくださいました。新しいいのちを与えてくださいました。ここで、新生の恵みについて、次の3点を教えられます。

1) 新生の土台

- ・私たちに新しいいのちを与えられたのは、私たちがふさわしいからではありません。**神は、ご自分の大きなあわれみのゆえに、**とペテロが述べたように、神の大きなあわれみでした。新生の基盤、土台は神のあわれみです。
- ・私たちは、神が与えてくださった霊的いのちを失ってから離れ、霊的に死んだ状態でした。自力で、どうす来ない存在でした。滅びに向かっていた私たちの悲惨はあわれんでくださいました。
- ・「あわれみ」は神の本性の1つです。神の救いに与つみな神のあわれみに与つた人たちでした。例えば、イ通られることを聞いた2人の盲人は、大声で「**主よ、ダビデの子よ。私たちにあわれんでください**」と叫びました（**マタイ 20:30**）



いました。神
ることも出
な状態を、神
た人たちは、
エスが道を

- ・受胎告知を受けたマリアも「**マリア讃歌**」の中でこう賛美しました。

ルカ福音書

**1:49 力ある方が、私に大きなことをしてくださったからです。その御名は聖なるもの、
1:50 主のあわれみは、代々にわたって主を恐れる者に及びます。**

- ・神のあわれみは、昔も今も変わりません。病人、弱者、小さい者は、だれかに頼らなければ生きられません。あわれみにすぎるしかありません。逆を言うならば、あわれみが自覚できる人は、自分の存在を認知しているということです
- ・いかがでしょうか。私たちは神の前で、どれほど自分を知っているでしょうか。まず自分を知るということは、自分に正直でなければなりません。神の前で自分と正直に向き合う人こそ、自分を知る人です。自分を本当に知れば、主のあわれみを求めざるを得ません。
- ・皆さん。私たちに新生させてくださる土台は、それは神のあわれみにあります。

2) 新生の方法

- ・次にペテロは、新生の方法について述べています。

「**イエス・キリストが死者の中からよみがえられたことによって、私たちに新しく生まれさせた。**」

- ・新生の方法は、イエス・キリストの復活にあります。イエスは十字架にかかれ、3日目によみがえられました。それで、私たちは新しく生まれることが可能となりました。
- ・パウロは、私たちはキリストとともに死に、キリストとともによみがえった存在であると、ローマ人の手紙で述べました。 **ローマ人への手紙 6章**
6:8 私たちがキリストとともに死んだのなら、キリストとともに生きることもなる、と私たちは信じています。
- ・すなわち、私たちが新生することは、キリストとともに死に、キリストとともに生きる人（復活）に与えられる贈物です。キリストが死者の中からよみがえられた、そのいのちが私たちにも与えられたのです。それが新生です。つまり、復活がなければ、私たちは救いに預かることも、新生することもできません。
- ・そしてさらに、ペテロは新生の結果も述べました。

3) 新生の結果

1:3 私たちを新しく生まれさせ、生ける望みを持たせてくださいました。

- ・新生の結果は、生ける望みが与えられることです。「望み」とか「希望」というと、単に期待している程度と思うかもしれません。たとえば「私は〇〇を望みます」というと、自分は願っているけれども、難しいだろうな、と感じるかもしれません。なぜなら、望みがかなわない場合もあるからです。
- ・しかし、聖書が教える望みは違います。実現していないが、やがて間違いなく与えられるものを待ち望む、それが望みです。ですからペテロは「生ける望み」と言いました。
- ・私たちはイエス・キリストによって、「生ける望み」をいただいたものです。なぜなら、神は過ちと、失敗をされないお方で、言われたおことばを必ず成就されるお方だからです。
- ・このように神にあって新生することは；
 - 1) しっかりした「土台」があります。
 - 2) 土台の保証は「復活」にあります。
 - 3) 「生ける望み」をいただくこと。
- ・その望みは、新生した人にだけ与えられるものです（結果）。それでは、生ける望みとはどんなものでしょうか。望みの内容は具体的にどのようなものでしょうか。それが次の第2のポイントです。



2. 生ける望みである資産

- ・ペテロは次のように言いました。
- 1:4 また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。
- 1:5 あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように用意されている救いをいただくのです。
- ・このみことばから分かるように、生ける望みの内容は「資産を受け継ぐ」こと

であります。私たちには、相続することが予定されている資産があります。
 なんとという幸いなことでしょうか。この「資産」について、ペテロは次の3点を明らかにしています。

1) 失われない資産

1:4 また、朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これらは、あなたがたのために天に蓄えられています。

- ・先ず第1に受け継ぐ資産、また財産は「朽ちることも、汚れることも、消えて行くこともない資産」です。私たちがこの世の中で獲得していくものは、朽ちていくもの、消えていくものばかりで、永遠のものではありません。
- ・しかし、神が与えてくださる資産は、朽ちたり、汚れたり、消えていくことはありません。では、なぜ神が備えてくださる資産は、失われないのでしょうか。

2) 天に蓄えられている資産

- ・それは、「あなたがたのために天に蓄えられています。」とあるからです。「あなたがたのために」とは、イエスによって新生した人のことです。なんとという幸いではありませんか。失われることのない資産が、「あなたがたのために天に蓄えられています。」これがイエス・キリストを信じる人の特権です。
- ・「蓄えられている」という言葉は完了形ですから、これから蓄えるものではありません。いいえ、すでに資産はあるのです。イエスを信じる人は、生ける望みである資産に与るものです。
- ・一般的に言って、親は子どもたちのために預金通帳を作ります。お年玉やお祝い金を、ささやかでもその口座に蓄えてあげます。しかし子どもは小さいに時は、知りません。そんな口座があることも知りません。しかし、本人は知らなくても子どもを愛する親は、子どものために蓄えています。

『例 話』

- ・少し脱線しますが、私はある夫婦を知っています。彼らには娘さんがいます。その娘さんに可愛い女の子がいます。事情があって、娘さんは結婚生活を続けることができませんでした。ところが、その夫婦は、可愛い孫娘のために蓄えをしていました。孫娘はまだ小学校入学前でした。
- ・しばらくして何かの時に、私はその夫婦が孫娘のために、彼女が一生食べていける金額の蓄えをしていたことを耳にしました。一生食べていけるだけの蓄えがあるとは、どれほどか私には想像が尽きせん。その夫婦はそれだけの財力のある方です（財的成功者）。そういう人が世の中にいるものですね。私には大きな驚きでした。
- ・孫娘は何も知りません。しかし、夫婦は孫娘をこよなく愛していました。
- ・皆さん。私たちは完全な親ではありませんが、それでも子どもや孫のために蓄えを考えるならば、ましてや私たちを愛してくださった神、ひとり子イエスをも与えてくださった神が、私たちのことを思わないことはありません。

いいえ、天国銀行にちゃんと蓄えを備えてくださっています。天国銀行ですから、倒産の心配はありません。

- そこには、罪から解放され、喜びに満ちた神との交わり、愛に満ちた互いの交わりが備えられているのです。ペテロは、新生した人にはさらにすばらしい約束があると、言いました。

3) 地上における守り

1:5 あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており、終わりの時に現されるように用意されている救いをいただくのです。

- この神が与えてくださる資産は、天に蓄えられているだけではありません。終末が到来したときに、受け取るだけではありません。現在の人生においても、その資産の恩恵にあずかることができるものです。

- ① ペテロは、「**あなたがたは、信仰により、神の御力によって守られており**」、と言いました。「守られており」という言葉は軍隊用語です。護衛の部隊がついているように、神が確かなガードをしてくださっています。新約聖書は繰り返し、そのことを教えています。

- 守られている私たちは、確かな生き方ができます。詩篇 121 篇
121:3 主はあなたの足をよろけさせずあなたを守る方はまどろむこともない。
121:4 見よイスラエルを守る方はまどろむこともなく眠ることもない。
121:5 【主】はあなたを守る方。【主】はあなたの右手をおおう陰。
121:6 昼も日があなたを打つことはなく夜も月があなたを打つことはない。
121:7 【主】はすべてのわざわいからあなたを守りあなたのたましいを守られる。
 もう一点、教えられていることがあります。

- ② 日本語訳聖書では、「**救いをいただくのです。**」(1:5) と書かれています。ドイツ語のルター訳聖書では「**祝福をいただくのです**」と訳されています。「救い」という語（ギリシャの原意）には、祝福という意味もあります。そうです。確かに、人が救いに与ることは、祝福であります。ですから、ルターはこの文脈を、「**祝福をいただくのです**」と訳しました。その方が分りやすいですね。

- ヨハネ 10 章

10:28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えます。彼らは永遠に、決して滅びることがなく、また、だれも彼らをわたしの手から奪い去りはしません。

- 神を信じるキリスト者は、いのちの保証が約束されています。

ま と め

主 題：「生ける望みを持つように」

—まことの希望—

・今日、私たちはキリストにある幸いを教えられました。キリストにある人は、

1. 与えられている**望みのすばらしさ**、を覚えることができます。

天には蓄えられた相続財産があります。私たちは年金のことや、老後の備えを心配します。確かに老後の備えは大切です。そうであれば永遠の備えは、もっと大切です。イエス・キリストにあつて、永遠の保証、祝福が与えられていることは、なんという幸いなことでしょう。

2. **すべては神の恵みであり、あわれみである**ことです。

神は私たちを新しく生まれさせてくださいました。私たちには、生ける望みがあります。決して失われない資産を受け継ぐようにされました。相続財産は、すでに天国銀行に蓄えられているのです。私たちは神の御力によって守られています。それは神のわざ、神の恵みであります。

・愛する皆さん。 なんという幸いではありませんか。私たちには、このような特権が与えられていることを感謝し、喜びましょう。自分に与えられている人生を、勇気をもて歩んでいきたいと思えます。

* God bless you !